青森県
【重点プロジェクト計画】

ながいも産地の維持に向けた担い手の育成

活動期間：令和2年～（継続中）

○　三八地域は、高齢化によりながいもの栽培者が年々減少しており、産地として作付面積及び出荷数量を維持するためには、**単収の向上と作付面積の拡大**が必要。

○　農協は、産地の維持に向けて栽培知識の習得のため、これからの産地を担う**若手生産者で組織する「ながいも若手研究会」**を設置。

○　若手生産者がかかえる課題は、地域性や経営形態等により異なるが、**「労働力不足に対応した省力化」については共通**。

具体的な成果

1．種苗更新を行っている会員数

（3年に1回以上の更新）

■収量・品質を向上させるため、3年に1回以上優良種苗に更新する会員数の増加。

R1　37人→　R3　41人

2．個別課題解決に取り組む会員数

■若手生産者が各自に抱える課題について、農協等の関係機関と協力した個別対応により課題解決を実施。

R1　0　→　R3　6人

普及指導員の活動

令和2～3年

■優良種苗更新の推進

収量の向上には、**優良種苗への更新**が必要であることを研修会等により指導。

また、優良種苗増殖は、農協が採種ほ担当農家に委託するため、**採種ほ担当候補者へウイルス病防除等を指導**。

■栽培技術の高位平準化

ながいも若手研究会を対象とした栽培講習会等により**天候に対応した適期追肥・防除等を指導**。

また、大雨による品質低下の対策として**明きょ等の排水対策を実施**するよう指導。

■個別課題解決に向けた支援

令和2年に、課題と要望事項について把握するため意向調査を実施。

意向調査では、**労働力不足を課題としてとらえている**ほか、面積拡大を示す者が多かったため、スマート農機の実演を行い、省力化や軽労化に向けた作業体系を検討。

普及指導員だからできたこと

・農協や研究機関と連携し、**優良種苗への更新について継続して指導**することで、種苗更新者を増やすことが出来た。

・**研究機関や農機具メーカーとの調整役となりスマート農機の実演会**を実施し、省力化機械作業体系への取組みを検討することが出来た。

青森県

ながいも産地維持に向けた担い手の育成

活動期間：令和２～４年度

１．取組の背景

ながいもは三八地域の機関野菜で最も重要な品目であるが、高齢化により栽培者は年々減少しており、産地としての出荷数量を維持するためには、単収の向上と省力化の推進とともに一戸当たりの作付面積の拡大が必要である。

ながいも産地を維持していくためには、従来からのながいも作付農家に対する指導とともに、これからの産地の担い手となる若手生産者に対し、技術的・経営的な課題をとらえて個別指導等を強化していく必要がある。

このため農協が組織した若手生産者によるながいも若手研究会(49 名)を対象として、個別課題を解決していくため優良種苗の更新、省力化技術・機械の導入措置を図りながら単収向上や作付面積の拡大を実践できる担い手を育成する。

２．活動内容（詳細）

（１）優良種苗更新の推進

収量の低下は、ウイルスや土壌病害等に侵された種子を使用することで引き起こされる場合が多いため、研修会等によりウイルスや土壌病害に侵されていない優良種子への更新が必要であること、栽培中は、ウイルス病へ罹病しないようアブラムシ防除が必要であることを指導した。

また、優良種苗は、農協が委託した採種ほで増殖した後に、種子として分配されるため、ＪＡから委託される採種ほ担当候補者に対し、ウイルス低減のための防除等の指導を行った。

（２）栽培技術の高位平準化に向けた指導

天候（令和 2 年の低温・日照不足、令和 3 年の高温）に対応した適期追肥・防除等の講習会を２回／年実施した。

また、大雨による植溝の穴落ち等による収量低下を防止するため、ほ場ごとに明きょによる排水対策を実施するように指導した。また、毎年 10 月には、試験掘による作柄検討会を実施し、栽培管理による収量の変化について検討した。

（３）個別課題解決に向けた支援

令和２年に実施したアンケート調査により、各自で抱えている課題や意向について把握し、現地巡回等で支援した。

また、最も多くの人に課題としてとらえられていた労働力不足対策については、検討会とともに GPS ナビ機能付き施肥機やアシストスーツの実演等を実施した。

【あおもりながいも産地力強化推進事業】

３．具体的な成果（詳細）

（１）種苗更新を行っている会員数（３年に１回以上の更新）

優良種苗への更新を３年に１回以上行っている会員は、令和元年 37 人であったものが令和 3 年には 41 人と 4 人増加した。

（２）個別課題解決に取り組む会員割合

ながいも若手研究会を対象として、令和２年に実施した意向調査により明らかとなった各自で抱える課題について、関係機関と連携して課題解決に取り組むよう現地巡回等で支援することにより、課題解決に取り組んだ会員は 6 人まで増加した。

４．農家等からの評価・コメント

収量向上には、優良種苗による種子更新に継続して取り組むことが必要である。

産地を維持するためには、ながいもを栽培する新規就農者や若手生産者が増えるとともに、ベテラン生産者や普及指導員等の支援により、栽培技術を伝承することが必要である。

５．普及指導員のコメント（三八地域県民局・主幹・乙部俊幸）

試験研究機関や農協と連携することで、優良種苗への更新が収量向上につながるという試験結果を共有し、取組の拡大につながった。

高齢化による労働力不足に対応し、省力化につながるスマート農機の実演会を実施しするとともに、これからの担い手となるながいも若手研究会員を対象とした個別巡回を行うことで栽培技術向上につながった。

また、技術等の向上により、面積の拡大の可能性となる者と考える。

６．現状・今後の展開等

優良種苗は、安定した優良形質を得やすい小切片増殖技術について周知し、関心のある会員に対しては個別指導により優良種苗生産体系を普及する。

収量・品質向上は、土壌病害対策として緑肥作付が普及したため関係機関と連携して土壌診断に基づいた適正施肥や明きょによる排水対策を推進する。

労働力不足に対応した省力化は、小規模農家でも普及性の高い農業機械の検討を継続する。